

モノづくり体感スタジアム2014



一文字ずつ慎重に
刻印（オークマの
ブース）

「レンズ工作教室」、日本航空電子工業の「ジャイロつてなんだろう?」、オークマの「手作りおもちゃを作って遊ぼう!」、モノズ

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は8月29、30の両日、東京都渋谷区の青山学院大学青山キャンパスで「モノづくり体感スタジアム2014」を開いた。同時開催の「ワークショップコレクション10」（NPO法人CANVAS主催）と合わせ、子どもたちとその家族など約5万7000人が来場した。

子どもたち夢中
おもしろさ実感

科学・技術への興味 感動から

溶かした金属を型に流し込み、型を割ると中からストロップになって出てきた時の素直な感動、型抜きで上真ちに極く時の真刺したE.D.がきれいに点灯した瞬間の歓声、自作のコマで勝った喜び・負けた悔しさ。若者の製造業離れ、理系分離、子どもたちの理解力が叫ばれるが、体感型シミュラムに参加した子どもたち

どもたちを見ると、決して実験や工作が嫌いなわけでもないことが分る。

経験・体験する機会が少くないから、あまー関心を示さないだけなのではないか。機会を提供すれば、子どもたちは夢中になって手を動かしている。できあがりった際のおもしろさを感じたわ、すごいという感動が、科学や技術への興味を呼び覚ますきっかけになった。」

電子工業のブース）
きこちないながら懸命に取り組む（日本航空）



ぎこちないながら
に取り組む（日本
電子工業のブース）



浜野製作所のレーザー加工工場（長島大三郎撮影）



も、いわゆる大量生産とは異なる、付加価値の高い少量生産や一品ものの加工技術で顧客から高い信頼を寄せられている企業だ。

募集人数は30人。参加費は5000円。応募方法はWIRE D13号を参照。

ビジネス・ライフ
スタイル情報誌

「WIRED」

ル情報誌「WIRED（ワイアード）」日本版は9月27日、WIRED読者を対象とした「WIRED FIELD TRIP 墨田区町工場見学ツアー」を開催する。日刊工業新聞社とモノづくり日本会議のほか、科学技術開発ベンチャーのりバナース、東京都墨田区が協力する。

同イベントはWIRED 13号（9月10日発売、500円）の特集「未来のモノづくりのエコシステム 墨田区『FABタウン計画』」の立体化として企画された。墨田区内の工場を見学し、その後、見学先企業の加工工程と、今回工場見学に訪れるのは「レーザー加工と精密板金加工を得意とする特殊製作所」フツ素素など、渋沢英一（ふつ）加工で定評のある金屋（きや）工業、プラスチック素材の成形、切削、切断、溶接など幅広い加工を手がける墨田加工の3社。いずれも、いわゆる大量生産とはは

墨田区町工場見学ツアー

「FABタウン」計画 深掘り

モノづくりの基幹は国内

地場も開拓

——自動車の世界販売は伸び続けていますが、国内での設備投資の伸び悩みも指摘されます。自動車生産に主要な設備と動大型プレス機の世界環境はいかがですか。

「これまで世界の自動車生産は順調に伸びてきたが、少し踊り場の状態になりつつある。好調な国もあれば、変動しつつある国もある。トータルで下がることはないだろう。日系メーカーの設備投資はほとんどが海外との事業の拡大見通しを立てたの販売先になっているの難状況になっているのが、設備投資の決定時期がまだより遅れる傾向にある。国内向け投資の一部を除いて期待できない。その中でどう受

宗田 世一 氏

エイチアンドエフ社長

注を確保していくかだ」
——海外への営業活動は、やはり日系中心ですか。
「日系企業に頼り続けるわけにはいかない。現地のスポンサーなども開拓している。タイやインドネシア、中国などで実績がはじめています。1社1社の投資規模はそれほどはなくても、長い付き合いあいができる顧客をどれだけ抱えているかが重要。ネットワークを活用しながら地道に積み上げていくか地道に」
——海外現地企業を開拓するための要件は、
「やはりコストが重視される。新興国では韓国、メーカや台湾、メーカとの競合も厳しい。ただ、コストダウンへの努力は、アメリカとして当然。前回の話、あとはアフタサービスなどでどれだけ安心してもらえないか。ブレーキ機に不具合がある、自動車生産が止まっている。また最近では日系企業であっても設備関係の強化も図っている。各拠点に日本人を張り付けているが、現地社の一層の育成が課題だ。



コスト削減・リードタイム短縮 追求



またプレス機だけでなく、搬送など自動化装置まで一元的に提供している当社の特徴も顧客にとっては安心感につながる。

国内工場効率化

—コスタウンへの取り組みとして、海外生産も視野に入りますか。

「海外生産といっても簡単ではない。投資が巨額になる上、大型プレス機の需要は景気変動の影響を受けやすい。思い切った投資しても、稼働時に需要が冷え込んでしまう」と経営への影響が大きい。技能者を育てるにも時間がかかる。

「ただ需要地は海外へ移っています。需要地を生産すると、大型プレス機は一度導入すると30年以上は稼働を続ける。そのため更新が頻繁に起こるわけではなく、投資が一巡すれば需要地のものが変わっていきます。その点が継続的に需要が期待できる消費財とは違う。需要地が時代とともに変わるからと言って、そのために生産拠点を動かすわけにもいきません。当社では中国で協力企業に一部プレス機を製造してもらい、日本から送った基幹部品を組み込んで客先工場へ出荷し、日本で製作したブロックと合わせて組組み立てて行うという」

した。もちろん協力企業にも生産性の向上に努力してもらっている。生産方法も効率化を進めている。かつては出荷前に工場一度組み上げて試運転し、もう一度分解して客先へ納入していた。それを最初から納入先での据え付け時に組み上げ、

最先端ニーズいち早くつかみ具体化

る。そのために、顧客のニーズを早期に収集して開선에結びつける必要がある。その一つの例がある。その一つの例が、自動車用鋼板のブラマック加工を、プレス機は代わりに高速リザヤ切斷機で行うというものがある。プレス機だけでは断れないというものはある。その周辺の自動化化もかけていることとで、プレス機の受注獲得にもつなげていく。自国の自動車メーカーは、その中で最も先端を走っているだけに、その設備をいち早くつかんでのタイプ化する。海外メーカーと競争する上で他国に力かせない。

日本がモノづくりの国として生き残るためには何が必要ですか。

「人への教育が基本だが、最近ではコンピュータの中で設計だけやることが多くなってしまっただけが多い。これでは我々の大型プレス機のような大きなモノづくりは廃れてしまふ。やはり最後には行き着く」

モノづくり日本会議

會員企業各社（五十音順）



モノづくり日本会議
—モノづくり推進会議 NextStage—

事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号(日刊工業新聞社内) Tel.03-5644-7608 <http://www.cho-monodzukuri.jp>